

令和元年6月5日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2015～2018

課題番号：15H03236

研究課題名（和文）朱印船のアジア史的研究：16～17世紀、日本往来の「国書」と外交使節

研究課題名（英文）The Red-seals Ships in the Asian Settings: State Letters and Envoys Sent To And From Japan in the Sixteenth and the Seventeenth Centuries

研究代表者

松方 冬子 (MATSUKATA, FUYUKO)

東京大学・史料編纂所・准教授

研究者番号：80251479

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 12,300,000円

研究成果の概要（和文）：主たる成果として、松方冬子編『国書がむすぶ外交』（東京大学出版会、2019年）を刊行し、前近代のユーラシアの全域にみられた「国書外交」とその周辺にあった通航証について明らかにした。おもな論点は、今まで tributary system（華夷秩序・朝貢体制・東アジア国際秩序などと訳される）と呼ばれてきたものは、その実態からみれば国書外交と呼べるものであること、国と国をつなぐ仲介者（商人や宗教者、国書の運び手となることが多い）の役割が重要であること、である。台湾の中央研究院で日明勘合底簿の手掛かりとなる史料を発見するなど、多くの実証的な新知見を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

近年、歴史学における西洋中心主義が批判され、また日本史・東洋史・西洋史の枠を超えた議論の構築と成果の国際発信（世界の学術への貢献）が求められている。しかし、人文学は多くの部分でその淵源を19世紀のヨーロッパにもち、西洋中心主義を超えるのは容易ではない。本研究では「国書」という「日本語」をキー概念に用いることにより、この問題を克服しようとした。前近代外交史を語るうえで不可欠だが、学術的に注目されなかったことのない「国書」についての、日本史と東南アジア史のオリジナルな実証研究を組み合わせることで、従来のグローバルヒストリーとは異なる形での世界史を描いた。

研究成果の概要（英文）：This project depicted “Letter Diplomacy” and passes for trade in Early Modern Eurasia, based on our empirical research on East and Southeast Asia, which resulted in Matsukata Fuyuko (ed.), *Kokusho ga Musubu Gaiko [Correspondence between Crowns: Practices of Diplomacy in the 15-19 Centuries China Seas]* (Tokyo: University of Tokyo Press, 2019). Our main points are: (1) the so-called tributary system could be reinterpreted into “Letter Diplomacy” when we look at practices, (2) mediators of inter-state relations (mainly merchants or religious people, who often carried diplomatic letters) played an important role, and (3) the bearers of state letters were not always representatives of the sender.

研究分野：歴史学

キーワード：朱印船 外交 国書 通航証 東南アジア 東アジア tribute system 勘合

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

## 1. 研究開始当初の背景

朱印船に関する研究は、古くは岩生成一『朱印船貿易史の研究』(弘文堂、1958年、新版、吉川弘文館、1985年)があり、永積洋子『朱印船』(吉川弘文館、2001年)で実態面の解明が進んだ。しかし、これらの研究は近世「鎖国」の前史としての朱印船「貿易」に主眼を置いたものであり、中世史との接合、「鎖国」見直し論との整合性、航海の安全保障と貿易のための信用付与の側面、などの諸点からの再検討が必要であった。近世初期における国際的環境とそれに対する徳川政権の対応について最もまとまった論文は、加藤榮一「鎖国と幕藩制国家」『講座近世史2 鎖国』(有斐閣、1981年)('公儀と異国')と改題して加藤『幕藩制国家の成立と対外関係』思文閣出版、1998年に再録)だが、そこで提出された論点は、十全に継承されてきたとは言えなかった。

## 2. 研究の目的

本研究は、16~17世紀に東・東南アジア諸国やヨーロッパ勢力と、日本(足利政権、戦国大名、豊臣政権、徳川政権)との間で交わされた「国書」の分析を通して、中世から近世への対外関係のあり方の変容を、パスポート・ビザシステム(航海の安全保障と貿易の信用付与)としての「朱印(船)」を中心に考察する。すなわち、朱印船の経済活動ではなく、それをめぐる外交に着目する。その際、朱印船を受け入れた王権(具体的にはトンキン・コーチシナ:現在のベトナム、カンボジア、シャム:現在のタイ)を視点にしてみた場合どのように見えるのかも合わせて考えることにより、安易な日本中心主義、中国中心主義に堕することなく、同時期の環シナ海の国家・諸勢力間関係の束として問題を捉える。

## 3. 研究の方法

本研究は、主に下記の活動を内容とし、丁寧な実証研究に基づく、国際発信可能な議論の構築を目指した。

- ・史料調査(東京、京都、長崎、ヴァチカン、オランダ、フランスなど)
- ・16~17世紀の日本往来の外交文書の一覧表の作成
- ・ベトナム、カンボジア、タイの現地調査及び現地研究者との学术交流
- ・代表者、分担者、協力者、及びオブザーバー研究者による研究会の開催
- ・国際的な大規模学会(AAS,EAJS)における英語でのパネル発表

## 4. 研究成果

研究のおもな成果は以下の通りである。

松方冬子編著『国書がむすぶ外交』東京大学出版会、2019年(内容の構成は以下の通り)

総論 国書がむすぶ外交

一五~一九世紀南・東シナ海域の現場から和文脈の世界史をさぐる 松方冬子

第一章 別幅と誤解された勅書 日明関係における皇帝文書をめぐって 橋本 雄

第二章 豊臣期南蛮宛て国書の料紙・封式試論 清水有子

第三章 一八世紀末から一九世紀前半における「プララーチャサーン」

ラタナコーシン朝シャムが清朝および阮朝ベトナムと交わした文書 川口洋史

第四章 一五、一六世紀の教皇庁における駐在大使制度

「生きている書簡」による外交 原田亜希子

コラム1 「国書」という語を考える 木村可奈子

コラム2 天正二〇年の小琉球宛て豊臣秀吉答書写 岡本 真

コラム3 徳川将軍の外交印 朝鮮国王宛て国書・別幅から 古川祐貴

コラム4	一八世紀後半王朝交代期におけるシャムの対清国書	増田えりか
第五章	運用面からみた日明勘合制度	岡本 真
第六章	明代後期の渡海「文引」 通商制度史的分析からの接近	彭 浩
第七章	勘合とプララーチャサーン	
	田生金「報暹羅國進貢疏」から見た明末のシャムの国書	木村可奈子
第八章	朱印船時代の日越外交と義子 使節なき外交	蓮田隆志
コラム5	日明勘合底簿の手がかりを発見！	橋本 雄
コラム6	近世ドイツの旅と通行証	山本文彦
コラム7	植民地の旅券制度	
	オランダ領東インドにおける移動の自由と旅券	吉田 信

古川祐貴・岡本真・松方冬子「日本 朝鮮・西欧・台湾鄭氏往復外交文書表 16世紀末～19世紀初頭における」『東京大学史料編纂所研究紀要』29号、2019年3月

レオナルト・ブリュッセイ、橋本真吾訳、松方冬子校閲「東アジアにおけるオランダ東インド会社の盛衰—1640-60年代の『オランダ商館日記』に関する省察」『東京大学史料編纂所研究紀要』29号、2019年3月

蓮田隆志「朱印船貿易・南洋日本町地図の再検討」『環日本海研究年報』24、pp.1-8、2019年  
清水有子「フィリピン(ルソン)の日本人居住地と日本町」同上

川口洋史「朱印船貿易・日本町関連書籍所載地図タイ部分の表記について」同上

久礼克季「朱印船貿易時代関連日本史研究および歴史教科書掲載地図におけるインドネシア部分の表記と場所について」同上

1970年代以降積み重ねられてきた、日本対外関係史研究・東アジア対外関係史研究の成果を批判的に継承し、「東アジア」の枠組みにこだわる比較文明史観的外交像(朝貢体制・華夷秩序)を超えた、グローバルな(しかし西洋中心でなく、日本中心でもない)外交の世界史像を、不十分とはいえ提示することができた。

## 5. 主な発表論文等(順番を遡り、番号を付す)

[雑誌論文](計28件)

1. 松方冬子「オランダ共和国における宗教的寛容と日本」浅見雅一編『キリスト教と寛容 中近世の日本とヨーロッパ』慶応義塾大学出版会、2019年、査読無、119-134頁
2. MATSUKATA Fuyuko, "Contacting Japan: East India Company Letters to the Shogun," *The Dutch and English East India Companies: Diplomacy, Trade and Violence in Early Modern Asia*, (ed. Adam Clulow and Tristan Mostert), Amsterdam University Press, December 2018, pp. 79-98、査読無
3. 松方冬子「1650～1660年代シナ海域の情報ネットワーク VOC、三藩、ポルトガル人、唐船、在外日本人」『洋学』25号、2018年、査読有、59-79頁
4. 松方冬子「学習マンガと歴史学」歴史学研究会編『歴史を社会に活かす 楽しむ、学ぶ、伝える、観る』東京大学出版会、2017年、105-113頁、査読無
5. 松方冬子「二つの『鎖国』 海禁・華夷秩序論を乗り越える」『洋学』24号、2017年、査読有、33-51頁

6. 蓮田隆志 & 米谷均「近世日越通交の黎明」『東南アジア研究』56 - 2、2019 年、査読有、127-147 頁  
他 22 件

〔学会発表〕（計 29 件）

1. MATSUKATA Fuyuko, “Correspondence between Crowns: A World History of Diplomacy,” Princeton University, Princeton, New Jersey, USA, 25 March 2019
2. MATSUKATA Fuyuko, “Introduction,” the workshop “Correspondence between Crowns: Diplomatic Practices in Siam and its Neighbors in the 17-19 Centuries,” Chulalongkorn University, Bangkok, Thailand, 19 February 2019
3. MATSUKATA Fuyuko, “Five Types of *Sakoku*, and Perhaps More: Japan’s Self-Portrait within the Context of ‘General History’,” University of Naples L’Orientale, Naples, Italy, 13 December, 2018
4. MATSUKATA Fuyuko, “Five Types of *Sakoku*, and Perhaps More: Japan’s Self-Portrait within the Context of ‘General History’,” Chair for History of the Modern World, Institute of History, University of Zürich, Zurich, Switzerland, 10 December 2018
5. MATSUKATA Fuyuko, “Gifts and Commissions as a Replacement of Border Tax: Reevaluation of the VOC gifts to the Tokugawa Shogun,” the workshop “Gifts and Tribute in Early Modern Diplomacy: Global Perspectives,” Warwick in Venice (Palazzo Pesaro-Papafava), Venice, Italy, 8 December 2018
6. 松方冬子「外交とはなにか 言葉を考える」HMC・LUIオープンセミナー、東京大学東洋文化研究所、2018年10月26日
7. 松方冬子「約条・契約から条約へ」洋学史学会例会、電気通信大学、2018年7月8日
8. 松方冬子「約条・契約・条約 オランダ東インド会社（VOC）の外交を考える」東洋史研究会大会、京都大学、2017年11月3日
9. MATSUKATA Fuyuko, “Towards a Transcultural History of Diplomacy,” Leiden Lecture Series in Japanese Studies, Leiden University, the Netherlands, 8 September 2017
10. MATSUKATA Fuyuko, “Passes for Trade” EAJS Annual Conference, CHAM, New Lisbon University, Lisbon, 31 August, 2017
11. MATSUKATA Fuyuko, “Departure of the *Shuinsen* Project for Trans-national and Trans-local Crossings,” the Japan Foundation, Summer Institute, Shonan Village Center, Hayama (Kanagawa), 7 July, 2017
12. MATSUKATA Fuyuko, “Countries for Commercial Relations (*Tsusho-no-Kuni* 通商国): The Tokugawa Struggle to Control the Chinese in Japan,” 日本学術振興会研究拠点形成事業「新しい世界史／グローバル・ヒストリー共同研究拠点の構築」との共同による East Asian Studies Program, Princeton University, Princeton, USA, 12 April 2017
13. MATSUKATA Fuyuko, Keynote Speech: “Towards a Transcultural History of Diplomacy,” the Core-to-Core Global History Collaborative workshop “Towards a Transcultural History of Diplomacy,” Institute for Advanced Studies on Asia, the University of Tokyo, Tokyo, 9 December 2016
14. MATSUKATA Fuyuko, “Countries for Commercial Relations (*Tsusho-no-Kuni* 通商国):

The Tokugawa Struggle to Control the Chinese in Japan,” Global Japan Studies, Institute for Advanced Studies on Asia, the University of Tokyo, Tokyo, 24 November 2016

15. 松方冬子「カロンの甥 1660年代アジア海域の情報ネットワーク」洋学史学会例会ミニシンポジウム報告、電気通信大学、2016年11月13日
16. MATSUKATA Fuyuko, “Countries for Commercial Relations (*Tsusho-no-Kuni* 通商国): The Tokugawa Struggle to Control the Chinese in Japan,” Conference: Maritime Worlds around the China Seas: Emporiums, Connections and Dynamics, Academia Sinica, Taipei, 31 August 2016
17. 松方冬子「国書と疑似臣民 『海禁・日本型華夷秩序論』を批判する」、洋学史学会25周年記念大会、電気通信大学、2016年5月7日
18. MATSUKATA Fuyuko, “Overview of Historiography about the Red-Seal Ships (*Shuinsen*),” Early Modern Vietnam-Japan Relationship: A Regional Perspective (朱印船科研第4回研究会)、於：ベトナム国家大学ハノイ校、2015年12月24日
19. MATSUKATA Fuyuko, “Contacting Japan: East India Company Letters to the Shogun in 1627, 1649, 1667 and 1673,” The Global Company Conference, Internationales Wissenschaftsforum Hidelberg, University of Heidelberg, December 5, 2015
20. MATSUKATA Fuyuko, Keynote Speech, “Embassies without Credentials: European Encounter with Japan in 17th Century Depicted in Western and Japanese Documents,” EAJRS, The University of Leiden, The Netherlands, September 17, 2015
21. MATSUKATA Fuyuko, “Diplomatic Relations with the Zheng Family?: Tokugawa’s Struggle to “Control” the Chinese in Japan”, “Workshop on Maritime Worlds Around the China Seas: Emporiums, Connections and Dynamics,” 台北、中央研究院、2015年7月1日
22. MATSUKATA Fuyuko, “Diplomacy without Credentials: Foreign Relations in the 15th-17th Centuries East Asia,” Association for Asian Studies, Convention Center Seattle, U.S.A., March 31, 2016

(他 7件)

[図書](計6件)

1. 松方冬子編著『国書がむすぶ外交』東京大学出版会、2019年1月
- (他 5件)

[その他]

ホームページ等 <http://www.hi.u-tokyo.ac.jp/personal/fuyuko/kaken/shuinsen.html>

## 6. 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：蓮田 隆志

ローマ字氏名：**Hasuda Takashi**

所属研究機関名：立命館アジア太平洋大学

部局名：アジア太平洋学部

職名：准教授

研究者番号 ( 8 桁 ): **20512247**

研究分担者氏名 : 橋本 雄

ローマ字氏名 : **Hashimoto Yu**

所属研究機関名 : 北海道大学

部局名 : 文学研究科

職名 : 准教授

研究者番号 ( 8 桁 ): **50416559**

研究分担者氏名 : 岡本 真

ローマ字氏名 : **Okamoto Makoto**

所属研究機関名 : 東京大学

部局名 : 史料編纂所

職名 : 助教

研究者番号 ( 8 桁 ): **50634036**

研究分担者氏名 : 彭 浩

ローマ字氏名 : **Peng Hao**

所属研究機関名 : 大阪市立大学

部局名 : 大学院経済学研究科

職名 : 准教授

研究者番号 ( 8 桁 ): **80779372**

## (2)研究協力者

研究協力者氏名 : 川口 洋史

ローマ字氏名 : Kawaguchi Hiroshi

研究協力者氏名 : 木村 可奈子

ローマ字氏名 : Kimura Kanako

研究協力者氏名 : 清水 有子

ローマ字氏名 : Shimizu Yuko

研究協力者氏名 : 原田 亜希子

ローマ字氏名 : Harada Akiko

研究協力者氏名 : 北川 香子 ( 2015 年度のみ )

ローマ字氏名 : Kitagawa Takako

研究協力者氏名 : 西澤 美穂子

ローマ字氏名 : Nishizawa Mihoko

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。